

タイ

活動規制の厳格化で強まる景気下押し圧力

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail: kumagai.shotaro@jri.co.jp

■活動規制の厳格化でも止まらない感染拡大

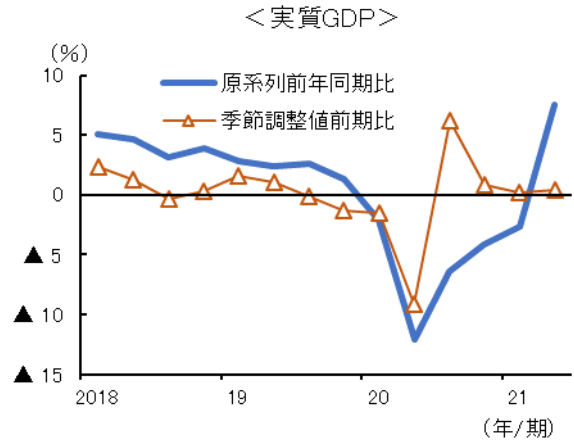
デルタ型変異株を中心とする新型コロナの感染拡大に歯止めがかからないなか、タイ経済は低迷が続いている。2021年4~6月期の実質GDPは、前年同期比+7.5%と前期(同▲2.6%)から加速し、6四半期振りのプラス成長に転じた(右上図)。しかし、これは昨年的大幅な落ち込みの反動によるものであり、前期比では+0.4%と伸び悩んでいる。ソクラーン(タイの旧正月)時期の娯楽施設の営業停止や帰省・旅行の自粛要請、感染拡大に伴う消費マインドの悪化等を受けて内需は4~6月期にかけて悪化している。

7月以降、感染状況は一段と深刻化しており、8月には日次の新規感染者数が2万人に達した。医療体制のひっ迫に対する懸念が高まるなか、7月中旬、政府は感染防止策として、バンコクを含む感染拡大地域に対して夜間外出規制を発令するとともに、商業施設や公共交通機関の営業時間短縮等の取組を強化する方針を決定した。さらに、8月上旬、政府は最も厳しい規制が適用される地域(「ダークレッドゾーン」)の範囲を拡大するとともに、県をまたぐ移動の監視を強化する方針を示した。一連の措置を踏まえて、主要機関は2021年の経済成長率見通しを相次いで引き下げている。8月上旬、タイ中銀は2021年の実質GDP成長率の予測値を+0.7%と(前回+1.8%)、NESDC(タイ国家経済社会開発評議会)も2021年4~6月期のGDP統計公表後に同予測値を+0.7~1.5%(前回+1.5~2.5%)へと引き下げた。

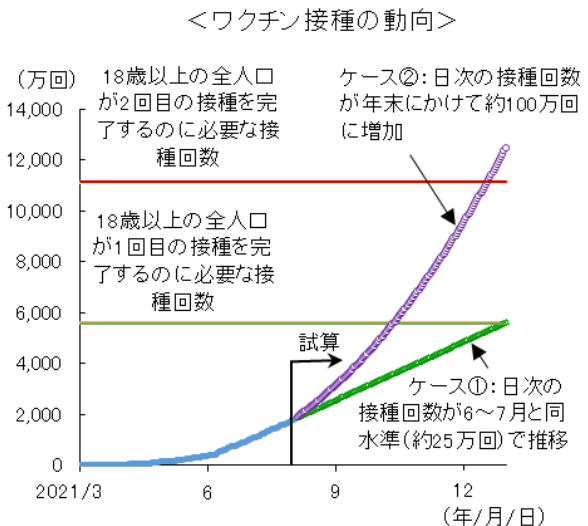
■ワクチン接種の遅れに伴う景気下振れリスクも

医療提供体制のひっ迫は、ワクチン接種の遅れを通じて景気回復を遅らせる可能性がある。現在の累計ワクチン接種回数は約2,000万回であり、今後、接種ペースが大幅に加速しない限り、年内に国民の大半がワクチン接種を完了することは困難である(右下図)。政府は、観光産業の持ち直しに向けて2022年よりタイ全土で隔離措置なしで外国人の入国を認めることを計画しているが、ワクチン接種の遅延を理由に実施時期が見直される可能性もある。

さらに、ワクチン接種の遅れや長引く景気低迷に対する不満を背景に、反政府デモ活動が各地で活発化しつつあり、それに伴う景気下振れリスクも見逃せない状況となっている。



(出所) National Economic and Social Development Council



(出所) Our World in Data、United Nationsを基に 日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。